

本校児童のみなさん

地球規模で加速している新型コロナ・ウィルスによる感染状況のもとで、本校も2月末から今日に至るまで、先生方と児童のみなさん全員が学校で顔を合わせる機会はありませんでした。そのことを残念に思いますが、こうした環境の中にあっても一人ひとりがそれぞれに意義深いと感じることに取り組んでおられることと思います。

私が本校の校長として着任したのは2017年4月のことでした。その時以来、筑波大学附属小学校のみなさんの活躍に励まされることはたくさんありました。

最初の一年間を取り上げてみましょう。

児童が活躍する初めての例が「一年生をむかえる子ども会」でした。3年生（現在5年生）のみなさんの努力で実現した、広い講堂いっぱいを満たしていた生き生きとした希望に満ちた雰囲気、そして入学してからまだ一月ほどしか経験していないのに、3年生のお兄さんお姉さんのサポートを得ながらも、一人ひとりがステージ上で立派に挨拶できた1年生（現在3年生）の姿には本当に感心しました。

その年の最後の行事が、5年生（現在中学1年生）の努力で実現した「卒業生を送る子ども会」でした。2018年3月のことです。あの時、ステージの上でさまざまなポーズで挨拶をする卒業生の両脇のスクリーンには、本人たちの笑顔が映し出されていました。そしてその笑顔に添えて、一人ずつ将来就きたいというあこがれの仕事がかかれていたことに感銘を受けました。

小学校時代の理想は大人になる過程で変わるかもしれません。変わるのが普通です。けれども卒業に際して先輩たちがかたちにできた理想の数々は、「一年生をむかえる子ども会」以来経験してきた小学校生活の成果でもあり、将来変わったとしてもそれぞれの進路をくつきりとさせ、また励ますもとなるものとして受け止められるような気がしたことでした。

現在世界を取り巻く状況は、各国の代表者も苦勞しているように、前例のない事態です。どうすることが正解なのか、誰にも簡単にはわかりません。そしてこれからも、そのような問題が起こることはありえます。

毎日の学習は今この時を充実させるもととなることではありますし、自らの進路を決定するきっかけともなります。けれどもそれだけにとどまらず、予測が難しい未来にあって、自分や自分をとりまく人たちが生き生きと過ごすことができるようにするための、理想や気持ちの持ち方などを身につけることもたいせつです。来年度以降も、毎日の学習に加えて「一年生を迎える子ども会」から「卒業生を送る子ども会」に至るまでの行事の数々を通して、みなさんがそのような構えを身に着けていかれることを期待しています。

今年の春休みは思いがけなく長くなってしまいました。それぞれの環境において納得のいく生活をこころがけてください。四月にまた、お目にかかりましょう。

6年生（卒業生）のみなさんには、3月22日（日）の卒業式であらためてお話しさせていただきます。

2020年3月21日

筑波大学附属小学校長 甲斐雄一郎